



南條 紀行
徳別あつり
紀行

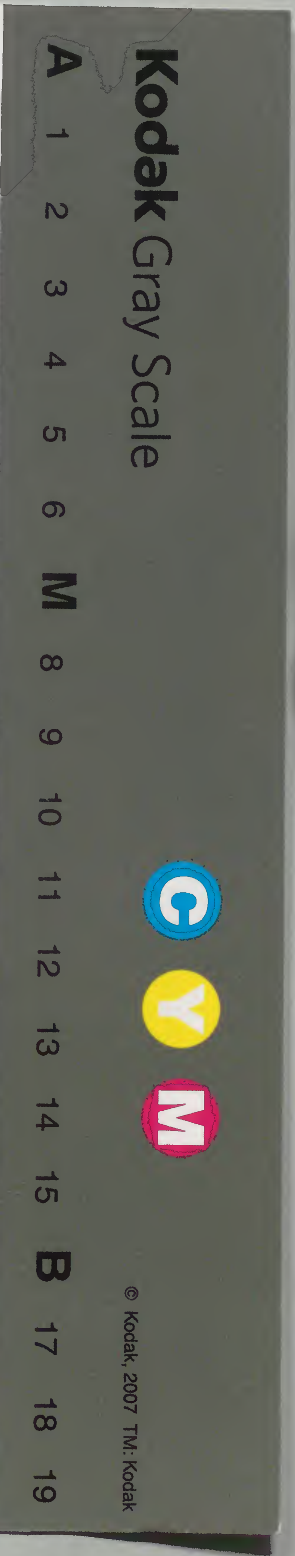
四

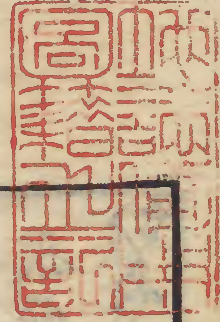
26
用 料

和書門			
三六六〇三	函	架	冊
一一二	架	冊	冊
七	冊	冊	冊

内閣文庫	
和	三六六〇
函	一七
架	一五

内閣文庫	
番號	和 36603
冊數	7 (4)
函號	177 932





Vertical text in seal script, mostly illegible due to fading. The text is contained within a black rectangular border.



1226

南遊紀行卷之中

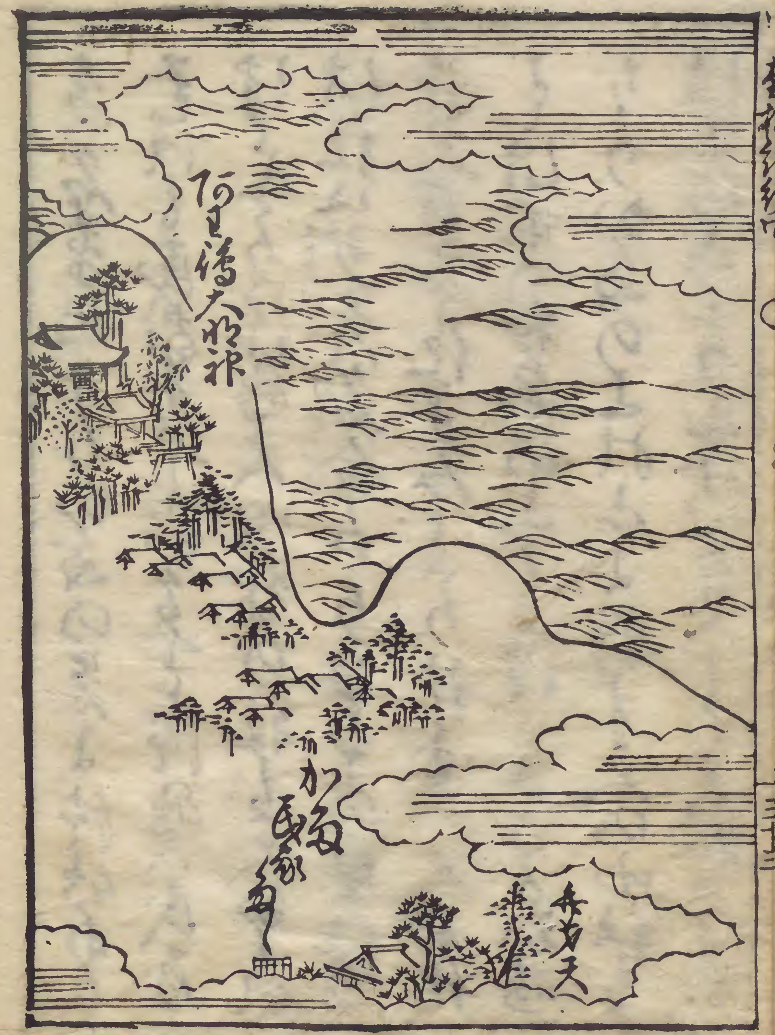
紀別

大和

大川浦 紀列の小橋より八町と云ふ
炭火タチ炭を煖雜なる坂を越ゆる事
一里に及ぶ深谷に入るとまま浦の浦邊
舟乗り又小山を越ゆるかぬも御所
かぬハ民家千軒と云ふ家人多しけ

名を尋ねたりかぬの先は清浄あり
是にも民家多しか多と清浄ハ民屋
けくまり清浄大明神の社と云ふ
は社ハ少スナチヒコナノミト者名余たり日本の醫社
社也日本紀よみてたり社名乃人集宿
とけ雨ハ和泉の山よりけくまると
かりかぬの上れと云ふ辨才天の由社と
けとのとらり伏見入して大和乃高

城より西の方を回和泉河内の上つり
 流乃奥ツキと云流トシガとて流二あり西小
 わる成奥れ流と云奥の流れ水乃か
 流の丸山を流トシり奥ツキと云水乃あり成
 地乃流と云地の流れ水の出流乃丸
 山を牛ウシが首と云其奥ツキ小流一と
 おゆぐと云流流より地の流二里
 奥の流二里あり是皆紀列の内也



若う船よ者より大蛇ヒありと云々
田のわれ出渡と和田の船よと云々
田渡
船乃ち入海なりけ地係系なり
船玉の商船泊るをいふこと
のて江戸奥列より舟ハ若う船と
かぬ
の舟とあり又若う船の船ナも
なり渡船の舟ハ港ナより
船のトモツチ船とツチ船と
船の船と船と船と船と船と船と

船より河渡國もじりしよと云々
今昔ハか多よ船と船舎ハ二階と
船よのそりありおみお船多くしり
に舟を天れしとてしりてまきく
船よに若う船二ありしと云々
風系よりしりありと云々
物わりありし船よと云々
舟とじり

和方山ハ清海より三里ありて山頂志の
 方の溪をよ松多しはま^{ニラ}白浦あり
 和方山町乃方乃紀の川をよめて
 ことろ毛吉野川のも道志河ありて紀
 伊のふか^く云名ありあり松多し
 和方山北城と紀別君居る城下の
 境地ゆるくゆき^きし和方山と和方
 浦のるれ水の溪と^{サマ}吹上と云吹上乃

河ハ和方山とつても吹上にも^{サマ}士の屋
 ありあり松多し乃のたれ松林れを
 うさ^くあよ古徳度考志云の清^ク良廟
 こと甚員業いして大かりぬ珠ちは
 吹上の乃れ志の山乃よれ左日^{サマ}志系
 の大者也たのふよ妙見の社あり
 ちよい^くちハ紀別故^{サマ}相^{サマ}れ母養
 珠院殿乃位牌あり

和方山記

三十一

和光浦に 和光の浦 一里あり 東照文太のころと
みまむしよふ作人ありて甚く其業あり
祓飲多く僧舎ありたり是より和光
浦をたらふも業すれり今日は
けきと様さうしにさかなく光景もいと
はさけり市文の下和光院よ 大猷院よ
蔵有院よ清光廟ありき東照浦院母
俣山あり甚佳景なり昔は道の田

病かしと詠せし處ハ 東照文太の下三林
のちと指ありありと一と云ふ三林の社ハ
東照文太のちよ並つり是又らとにあり
社又大なり是よりが太の方へ行て漁
人此所と云和光の浦乃海と云ふ出り
かきま地乃地抄と云ふは地抄も和光の浦
と云ふと云き入海なり信經と云け
浦よむあり有くありれ一ありは男

和光記

彼と云は後非也男彼といふあゝかんと
 ぬ彼といふ彼也りきりきりきり後と後
 とはあつらの心たもてくははの乃
 理よたふいぬる事やあるきとすい
 一うへくして後人よとてりきり迷とこ
 とさんあつては後をいぬるい
 て心をあつてくくくはあつてい
 う信疑のこゝにいぬる一只よの信疑乃

雨のこゝあつてあつていぬるい
 ずらあつてあつてあつてあつて
 何とあつてあつてあつてあつて
 にあつてあつてあつてあつて
 空也とあつてあつてあつてあつて
 りとあつてあつてあつてあつて
 あり酒半とあつてあつてあつてあつて
 のこゝあつてあつてあつてあつて

を
三
しらねを深きくちるときさきとせりしは
やましくしほもくはるくさきさきとせり
は歌美葉の奇にせりしは浦の佳景
安しにほりて目を驚きたり我けき色
とせきちりしと海をよみ踏踏しきさ
をりせりし時をうりせりしとて又か
のたぬり玉津崎の民家乃東よを

少社なり東にせりしは拜殿の奇伝乃あ
の道遠は美伝の奇なりと云社の後
乃小山を他社とて号し社のおれ小山
と鏡山と云ふは皆奇傳乃又理の事
き流るるの石のて一山只一石なり甚
奇しき親たり後よ稀なる株背のハ
玉津崎の東よあり辨才天の社あり
乃於勢の中きさき目を驚きたり凡和

あけ浦の石は皆本紀より多く甚くあり
他列といひまゝにさる所也け所の妹背
山の近俗の移りかゝる也古語よあるを
正すよ一玉は妹背山の南のあの方
布引のまより湖のまより入江なりまじり
ひ海乃方のさた沙乃岩もそあより
松まよりけ甚くけ入江のあより佳京
かり古語に人とりくるとやうん全

本紀の記述は
三十一

清徳くすむ入江のまれあまかのとよあ
ふはけあちるく一もより海を毎て後
まじりひま布引のねありたあよそ
より蟠屈して程見ああり布引といはけ
松のある所のあまよあ所の名也後代
へゆくる也紀と并さよくる具藤よ所
ありあ舎よ

紀と并さ妹背山の東あり今別家のみ寺

本紀の記述は
四十一



と号は毛ぬふ二千二百親善乃弟二
 番あり親善堂ハ山のうらうらたうさ
 よあり天かりる堂也まよひたる石の階ナカ
 ぬけありと堂をたうり階ありハ和舟ハ弱
 浦眼下ハいんそく海山のまきまの
 みこころ煙カミの煙さらのありて風よ
 さいくろ眼界ひろまればかして安
 見雨多し舎サヤ誓心チカの佳景ナカかなくして

そも懸接セツよいと傳ありと王子教りつに
わすれ奇の料多し後玉の佳境多し
とらふもかくのさうなるも家来はまれ也
凡和方といふ我がの系色とされまじと大
國乃城下されし神社佛さうありし
其洒掃サイソウもきよけまじり入の光を
よきり今日をさうりふけ遊観とあり
るや其基し近年新く名付し和方

の浦八系といふ 志無き天廣まじり
清紀と并ち妹背山に男波あつちを浪と云
布引乃ねきもとをさかり若き寺は
妹背山の南并才天のありし也是亦人
れ方ありて名所まじり八系乃心
玉付ゆを陰カゲといふ事も古来の名所
よわらぬ
紀と并ちの東一里小雑チカと云ふあり和

あはれ記

方よりうへへはくまわり

和奇より衣代^{タダテ}炭^タあまより由^ユき山^{ヤマ}道^{ミチ}和^ワ方^{カタ}
より二里あり熊野へ行^イるあり衣代の
坂^{サカ}より海^{ウミ}濱^{ハマ}目^メ下^ノに有^アく絶^ツ景^{ケイ}あり
又今^{イマ}名^ナる等^{トウ}捨^シ松^{マツ}とて大^{オホ}木^キ二^ニ株^ケとて
名^ナこよ^ヨ志^シ井^イ村^{ムラ}村^{ムラ}よ木^キ梳^カと多^タく^ク樹^{ジュ}
と紀^キ列^{レツ}松^{マツ}と云^イふ也^{ナリ}也^{ナリ}高^{タカ}取^{トル}の塗^ヌ師^シと
賢^{サトウ}と塗^ヌる又^{マタ}王^{オウ}子^シの社^{ヤシラ}あり是^{コト}熊^{クマ}野^ノ系^{ケイ}

清^{キヨ}の石^{イシ}中^{ナカ}九^ク十^{ジュ}九^ク石^{イシ}のま^マ子^シ此^{コノ}一^{ヒト}ち^チり^リ松^{マツ}
兄^{ケイ}才^{サイ}の毛^{モウ}地^ヂあり其^{ソノ}子^シ孫^{ソク}今^{イマ}に^ニ在^アるとい^ハふ
我^ガ熊^{クマ}野^ノ山^{ヤマ}遊^{ユウ}観^{カン}の風^{フウ}志^シありと^トい^ハふも
ありて^テな^ニま^マ海^{ウミ}を^ヲ以^テ極^{キョク}と^シて^テ恨^{ウラミ}あり
と^ト彼^{カノ}所^{トコロ}を^ヲ見^ミて^テ人^{ヒト}々^々乎^カに^ニ説^{セツ}く^ク曰^{イハ}日^{ニチ}本^{ホン}
の佳^{カミ}京^{キョウ}熊^{クマ}野^ノ及^ツ志^シ智^チの瀑^{ハク}布^フハ^ハ富^{トモ}士^シ
山^{ヤマ}井^イと^トい^ハふ^ハ紀^キと^ト井^イと^トい^ハふ^ハ和^ワ方^{カタ}
乃^{ソレ}坂^{サカ}下^ノの^ノ所^{トコロ}と^トい^ハふ^ハ是^{コト}下^ノり^リ言^{コト}語^ゴを^ヲ語^ゴ

神代卷之八

八幡屋をわりの

和奇山の郭に掛他をそがなる所と
結念道よりき錦の方より小
八幡屋和奇山より廿四町と民家並に
らと結人をさくじり家あり和奇山和
奇浦八幡屋郡八幡屋の名も和奇あり
落着よ乃く八幡屋より廿と廿十六日
八幡屋をわりの

伊太木常社八幡屋より巽の方一里半

一里小あり大社あり九月十五日流瀨の
つ馬土平古足出る僧坊多一と云

日影の社八幡屋より一里半より和川

乃方小立出社あり是の側あり

川瀨八幡屋より一里あり

根来寺川瀨より二里より八十坊あり其

中に大勝院法政職あり是とあまると云

昔ハ友カ友有テ西東ノカ友ト稱シキ
時トモ根本寺ハ境内甚シク一善哉若
夫若小若其花若トモ大ナル若四あり
山より以若の内東地より深奥の地
にわくと若ハ皆東南小向り大隈^{二層の}
々小若子立見^也維^{ナリ}りん乃不
秘考^之 ^{古角の}あり少地坊の改まる秘考
の門ありあり如種院乃依ハ不秘考の

西三河許より傳法院^{右の法}の法大隈乃
名^{あり}あり考考若とのとれは考考大隈
ちの傳^は傳法院と編入は傳法院考
とは考考^ハけんとして考考と考考して
紀の川と下し和考^のあり^{今傳法}母考
接列大坂まで^門を考考考考^と同考
根考^は傳考^ん考考^らひて考考
しに法考^と考考^らひて考考^る

とて甚怒り申す所よ又根末より今
くろく板を其材木の寄りて西と今
まはれはと云根末よ学寮二所と末
派の僧ありまふ根末より考古と打
破り申すより以来甚衰微してち
然るに古信材木新をて代て新
らよ美或ハ耕地とてち産とすけり
新義乃と云家の祖是後開基たり

今よ其は流ともは大和の初津乃小
池坊系初のか積院ハ考古と云根末
破却以後彼こちの傍け地を去て彼
ありと云はれたり和名と云り考古
は根末よりれしは里と云り考古
あるハ紀の川乃あり根末ハ河
乃あるのふと云を因りありとのれ
りいりありと云はれしはと云り考古

新義乃と云家の祖是後開基たり

四十五

りつらいつらふまはれはあつらひのまはり
我々のこゝろあんとさひひのぬりす
りつらいつらふまはれはあつらひのまはり

甲日市村 根本より
一里あり

東に舟村に商人ありそ我に里の朋友
の同胞イラカウをれんう移るるをとおまはれ
そ安否をとりんらあまらうとて立寄
るそ出んとさひひか人のこゝろ

てかゝるり書を求むる書を役は
りつらひの隙をけりやとのこゝろに二
十日天王寺の聖具會より俗人
の舞樂とてり佳期とてりあり
夕陽あよりこゝろはやうくまゝに
ありつらひのぬりすをそ今も松川寺の
りつらひのまはり

松川寺 舟より
一里 本寺 観音 乙未 二年 三

松川寺

乙未 二年 三



西の一ちり堂大也所りり一民家千
 朝もくくく程も菜の地あり
 くる物は 毛よりくく物くくく
 ちりり市場 粉川より 宿澤也今日とぞに
 昔のくくくその市場は宿と聖十七日
 東門よ菰舎と本せ里くくく行くと
 水あり セ 昔粉川の中橋せくく西也菜
 某山下古寺多し 橋也二所飯橋を町

許めの河申にうは流りつりねさう
^{シケ}流れし是系也様もあさうらに
今船あきかのれ系也さうし様
とて紀別よありより歌詠う袖中抄を
かの手書あきもは流りあやまりあり
ゆはあきいひんいひんあき
あきあきいひんいひんいひん川原の
中いあき流のさきいひんあき

那の上帝のあきりい様青いありて吉野
川を流りてあきりい様青いありて吉野
川を流りてあきりい様青いありて吉野
川を流りてあきりい様青いありて吉野
川を流りてあきりい様青いありて吉野
川を流りてあきりい様青いありて吉野
川を流りてあきりい様青いありて吉野
川を流りてあきりい様青いありて吉野
川を流りてあきりい様青いありて吉野
川を流りてあきりい様青いありて吉野

四十九

四十九

細道の吉野より北へて又吉野
より下紀の川に渡り北の邊なるは妹
見山と云へき所なり奇しくゆゑとて
名所と云ふべしと云ふ人あり
ゆゑに記さる所なり奇しくゆゑとて
ふかき事なりと云ふ所なり
ゆゑに記さる所なり

か井田村

多良村 市場より
二里許 是より吉野へとんあ
紀の川に下りて海にひらいて三
若くは二里あり

三若より吉野へのなり険あり
路をとりて二里ありて天孫
小孫の墓あり此東の麓あり

天孫の墓あり此東の麓あり
孫の墓あり此東の麓あり

多良村

五十一

野山法寺の神代社並より多升乃
歌り正位勲八号丹生大明神とあり
弘法の手也と云或曰衣縁也といふ
いつこの帝なりやま他大也仏園か
一社の名も一民家ありある舎は社職
教人あり烏帽子素襖袴と云て社
お乃番紙つとじ吊幣くけ雨の松店
り休とて

多升の方へ上座あり十町件ありて
多升とて名を姑二並立く一と正一
位勲八号丹生大社一と正一位勲八号
多升大社とまをり弘法の名ありと
り二多升より多升の大門まで百二十
町あり毎町石表あり町名と云

花飯の茶屋 天孫より
一里余

三間茶屋 是より大門へは
百町あり 二町あり大門までの

五十五

五十五

同ノ兼座か

け水の音小細川と云民家ノ紙を濂く
紙紙とて法列ノ座

三間華屋より七八何れと弘法の
石社ら石か一のをえわと云大石道の
側ノあり

寺の入口の大門二階門也二五れ
これより寺の境内あり境内ノ入

と僧坊商家所つてあり

大塔の二重の塔也と云と塔と云

金堂 本堂也方
七間あり あり河内なり金堂乃

お乃橋を七株の橋と云一切経を

結寺の社あり丹生寺錦二社を

と云と云大明神と云二社並に

弘法の廟堂より淨彩堂と稱と

三法れ松とて彩堂のありあり

五十五

五十五



東塔西塔とて小塔二ありを介徳堂
 多一皆大あり
 揚子芝揚子松とて壇上あり
 終階の洞とい壇上開伽井の末あり
 をり巡る八幡乃社あり

大塔をさく小田原と云河のほとりあり
 洪鐘あり是福徳なるま正則の寺
 進かり十二時と撞く六時の鐘とあり

五十一

五十二

法也と云ふ事あり園白秀次の勢く
位して自殺せしれし事也今も千
石あり

さしちよ 東照の清社あり大なり
ち銀千七百石計く二寺をふ小田原外
あり

源平盛衰記より西郷源口入るる位一
梨坊と云ふハ西郷源口よりあり東

家物終より多同院より位きしとらふ
今ある小田原乃傍舎光明院外宿に
翌十八日ち傍を郷導^ナして奥の院
より御座

奥の院ハ大橋より廿餘町あるもの
右は園より法侯或ハ留人の石橋まで
千といふ事を云ふは大なる石橋乃
かよハ皆石の石橋と立家と并り

西郷源口

五十四

玉川の奥の院へゆく所の石大橋より
十丈可許あり山根より涌出ワキせ流也
水之禪も弘法の寺忘れてもくわ
とありん猿人乃言禱の如く此玉川の
とありと彫ホリ付たりけ川毒ありなりと云
ふあり

淨ニメ廟ミヤの橋幅三間あり橋の下は甚
狭く是の弘法の廟堂に近をれハ涉

廟の橋と名づく俗よはありあり
てじやうのうと云愚俗ハ罪業と云
きものけ橋を流るるやと云とあり
佛菩薩乃其奥の妙理と云あり
福く人信と云きお俗人と云智ありて
りはありと云税を云物をはと云
と云と云わくわく人よと云つふ
世よは安堵を修せと云人多けと云

玉川の奥の院

十一

本堂

五十五

ぼくは...
 の中...
 此...
 是...
 一...
 費...

骨堂...
 一...
 一...

弘法...
 一...

九...
 一...
 一...
 一...

本堂

五十六

兼成あり

かづら井宿 三里あり 俗よりの家ありと云
公の妻乃墓ありと云るの六町ありと云
と云ひぬはくりにて詳なりと云印に小
ちありの事念仏あり

長田 長田 ありと云る所ありと云る所あり
の及して兼成ありと云る所ありと云る所あり
所より吾師入りあり

橋本 ハシノ ありと云る所ありと云る所あり
君の清 清 ありと云る所ありと云る所あり
ありと云る所ありと云る所ありと云る所あり
ありと云る所ありと云る所ありと云る所あり
ありと云る所ありと云る所ありと云る所あり

ありと云る所ありと云る所ありと云る所あり
ありと云る所ありと云る所ありと云る所あり
ありと云る所ありと云る所ありと云る所あり
ありと云る所ありと云る所ありと云る所あり
ありと云る所ありと云る所ありと云る所あり

ありと云る所ありと云る所ありと云る所あり

